

たどつのもかし

Vol.7 (H25.7.7)

「多度津の鉄道遺産群1」

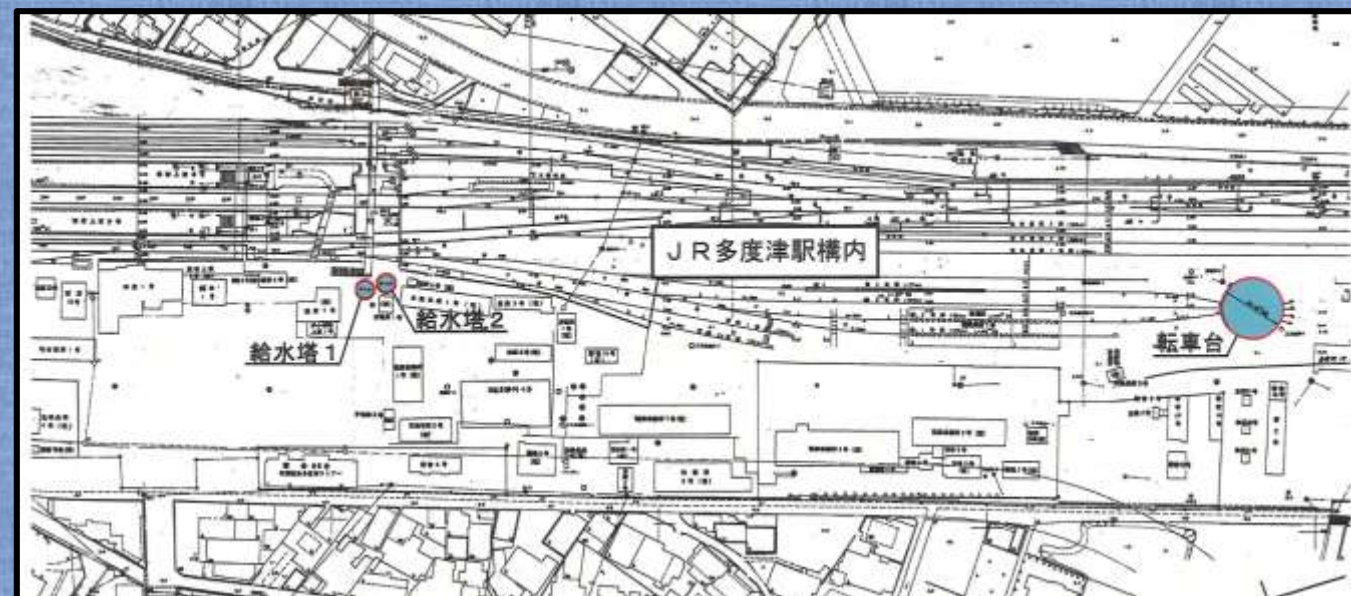
多度津は四国の鉄道発祥の地というのは皆さんご存知のことと思います。それに伴って町内には近代化に関わる鉄道遺産を多数見ることが出来ます。その中で登録文化財になっているものはJR多度津駅に3点、JR多度津工場内に7点の10点があります。

今回はJR多度津駅構内から紹介します。ここには転車台1つと給水塔が2つあります。

名称	構造及び形式
JR多度津駅構内転車台	鉄製転車台、石造、直径18.5m、昭和25年(1950年)
JR多度津駅構内給水塔1	煉瓦造、鉄筋コンクリート造、直径4.84m、高さ約10.6m、大正2年(1913年)
JR多度津駅構内給水塔2	鉄骨造、鋼製、直径4.5m、高さ約11.5m、昭和26年(1951年)
JR多度津工場職場15号	木造平屋建、波形スレート葺、建築面積522.6㎡、明治21年(1888年)
JR多度津工場職場17号	鉄骨コンクリート造2階建、シート防水葺、建築面積5216.5㎡、昭和6年(1931年)
JR多度津工場職場34号	鉄骨造、平屋建、波形スレート葺、建築面積713.6㎡、昭和14年(1939年)
JR多度津工場諸舎1号	木造平屋建、石綿スレート葺、建築面積459.6㎡、昭和10年(1935年)
JR多度津工場会食所1号	鉄骨造2階建、瓦棒葺、建築面積1337.8㎡、昭和23年(1948年)
JR多度津工場倉庫4号	木造2階建、瓦棒葺、建築面積767.7㎡、昭和16年(1941年)
JR多度津工場倉庫7号	鉄骨造平屋建、波形スレート葺、建築面積875.4㎡、昭和11年(1936年)

転車台は鉄道車両の中で動力車の方向転換を行うためのものです。構造はリベット留めの上路式バランス型の鋼桁を伴う転車台(写真①)で、すり鉢状に深く窪むピット内に架設されています。昭和25年の戦後に建造されたものです。

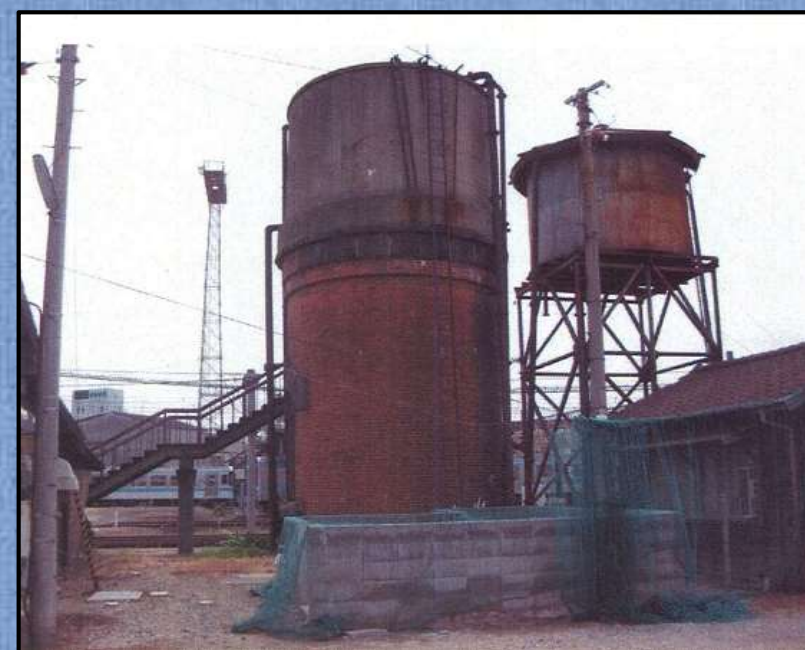
給水塔は蒸気機関車を使っている鉄道では、機関車の水タンクまたは炭水車に水を補給する手段が必要となるため建造され



るものです。給水塔1はレンガ造りの躯体の上に鉄筋コンクリート造の貯水槽を乗せた構造で、上部は八角形の屋根が乗せられている(写真②)。大正期に建造されたもので戦前の給水塔で現存する者は香川県で唯一のものとなります。給水塔2は古レールを利用したリベット留めの鉄骨構造です。不鮮明ながら八幡製鉄所の刻印が認められます。昭和26年建造のもので、3つとも蒸気機関車には欠かせない施設で、当時の多度津駅が四国内の主要な幹線の分岐点であったことを示す建造物として現在もその遺構を残しています。



写真① 転車台



写真② 給水塔1(左) 給水塔2(右)